

令和6年度 自己評価公表シート

認定こども園赤坂台幼稚園

1. 本園の教育目標

適切な環境のもと、知育・徳育・体育を中心に一人ひとりの発達や特性に応じ、調和のとれた豊かな人間性を育成する。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ① 園内外での研修に積極的に参加し、認定こども園としての教育の充実に努める。
- ② 配慮を要する子どもの支援体制を確立し、個々に応じた指導にあたる。
- ③ 食育への取り組みを強化する。
- ④ 施設・設備・遊具の安全点検を実施し、安全教育に努める。
- ⑤ 新たな子育て支援の強化を教員一丸となって取り組んでいく。
- ⑥ 家庭との連携を強化し、発達段階に応じた保育の充実に努める。
- ⑦ 日々、子ども達の健康観察を行い、感染予防対策に努める。
- ⑧ ドライブスルーを活用し、保護者が自家用車での送迎を安全かつ円滑に行う。

3. 重点目標の取り組み状況と評価

① 園内外での研修会に参加 認定こども園としての 教育充実に努める。	・府・市、私幼連で計画された研修会には積極的に参加し、園内でも報告会を持ち、教育の充実に努めた。 又、外部から領域毎に専門指導員を招き指導力の向上に努め、その成果を行事や保育参観で保護者にも発表出来た。
② 配慮を要する子どもの支 援体制を確立し、個々に 応じた指導にあたる。	・配慮を要する子どもについて、全職員が正しく理解するため、医者、心理士、発達相談コーディネーターなど、特別支援教育に関する研修に参加した。 又、支援を必要とする子どもには、加配教員を配置し終礼等の連絡会の場で報告し、キンダーカウンセラーのアドバイスも受けながら個々に応じた指導にあたる事が出来た。 ・市教委の巡回相談で定期的に相談し、支援の確立に努めた。

③食育への取り組みを強化する	・本園では、栄養士を配置し栄養管理や子どもの嗜好を調査するために給食ランキングを実施し、子ども達が喜ぶ献立に工夫するとともに衛生面には最善の注意を払って調理するように努めている。又、アレルギー症の児童には、保護者と連携し除去食で、個々に配慮した調理を実施している。 ・園庭で季節の野菜を栽培し、野菜の成長を観察し、収穫体験をすることで野菜に興味を持ち、食べる意欲へとつなげることができた。
④日々施設・設備・遊具の安全点検と様々な災害を想定した安全指導に努める。 車内置き去り防止装置ココールを設置 ※園児送迎バスでの園児置き去り事故防止に努めた。	・毎月 11 日を「安全点検の日」と位置づけ日・遊具の安全面を点検し、不足の事故を起こさないよう配慮している。また、毎年園児に年齢に沿って遊具での遊び方の指導を行っている ・地震・火災を想定し、避難マニュアルに従って毎月避難訓練を実施し災害等に備えている。 ・不審者新入に備え、常時防犯カメラ等を確認し、通報システム、非常ベル等の操作訓練を行い安全管理に努めている。 ・通園バス 2 台に車内置き去り防止装置ココールを設置し園児の降車確認漏れ防止に日々努めた。 また、目視と連絡ボードへの記入で毎日乗降時の人数確認と園児の出欠の連絡職員間で共有しヒューマンエラー防止に努めた。
⑤新たな子育て支援の強化を教職員一丸となって取り組んでいく。	・毎月 2 回から 3 回園庭開放をするとともに、未就園児向けにわんわん教室(1・2 歳児)、ぴよぴよ教室(0 歳児)を対象に、保護者も一緒に楽しい時間を過ごせるよう努めた ・キンダーカウンセラーによる子育て相談を未就園児や地域の方にもお知らせし子育て支援に努めている。
⑥家庭との連携を強化し、発達段階に応じた保育の充実に努める。	・園だよりや学年通信などで園の情報発信を行い、学期末に個人懇談会を開催し、保護者の思いを理解し連携を取りながら保育を進める。
⑦日々、子ども達の健康観察を行い、感染予防対策に努める。	・様々な感染症予防のため手洗い、うがい、手指の消毒をこまめにする事で感染症予防対策ができた。
⑧ドライブスルーを活用し、自家用車の送迎を安全かつ円滑に行う。	・ドライブスルー活用することで園児の送迎がとてもスムーズにできるようになり保護者からも高評価をうけている。

4. 本園の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

教職員一人ひとりが課題を認識し、保育の資質向上に向けて取り取り組むことができた。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み
教育内容の再編成	・新教育要領に沿った学年ごとのカリキュラムと行事などの指導内容を再検討、また同時に指導方法を考える。 特に 1 歳児受け入れに際し環境整備を整え、保育内容や給食などの整備が必要 ・年々猛暑の期間が長くなってきていることから、運動会の実施日の変更や、年間行事の時期や内容の見直しが必要
研 修	・積極的に園外研修に参加し全ての職員がスキルを高めるよう研修計画を立てる。 ・園内研修にて、共通理解を深め園全体の指導力の向上に努める。
特別支援教育	・配慮を要する子どもの情報を早期に発見、園児個々に対応した指導計画を作成し、外部の専門機関とも連携を密にし、専門的な講師の意見も参考にしながら、個に応じた指導に努める。
安全指導	・火災、地震時の避難訓練、交通安全訓練、不審者の声掛けなど安全についての意義を高める指導を強化する。 ・エアコン・サーキュレーター・遮光テントやカーテンなど適材適所に配置し猛暑対策を行う ・状況に応じて色々な感染症の対策を講じ園児の安全指導を行う。 ・通園バスに車内置き去り防止装置ココール設置した上で、連絡職員間で情報共有しヒューマンエラー防止に努める
子育て支援	・預かり保育・園庭開放・未就園児の親子教室実施 特に 0 歳～1 歳の親子登園の機会をつくり、育児相談など子育てに悩む母親を対象に支援活動を強化する。 ・子育て新法の趣旨を理解し、実践していく。
小学校との連携を図る	・園児が小学校を訪問し、見学、交流会などを通して進学への不安解消に努めるとともに、小学校との段差の解消に努める。 ・保幼小の職員が交流を深める研修会参加や交流を増やし、情報の共有をし、子どもが安心して小学校生活を過ごせるよう努める。
ドライブスルー活用	今後は保護者のニーズに合わせドライブスルーの利用時間を検討する

6、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・子ども達が安心安全な園生活が過ごせるように配慮し、園児の個性を大切にした教育が随所にうかがわれる。
- ・子ども一人ひとりの成長に合わせて、きめ細かな指導がなされている。
- ・少子化の影響で少人数編制であるが、その特色を生かし園児の成長に合わせた園行事等が行われていた。

7、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。